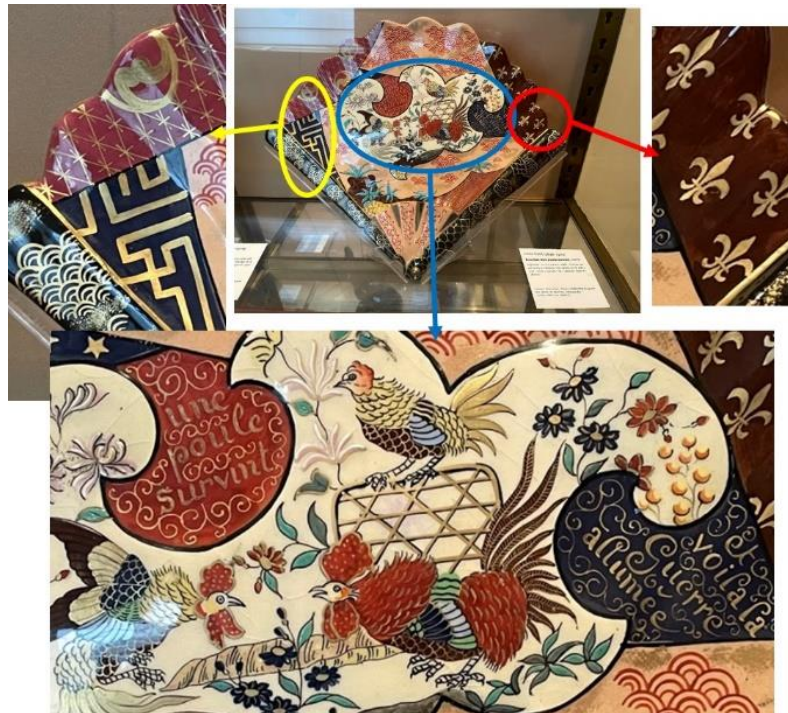


147 エミール・ガレのジャポニスム (2023 年 2 月 9 日)

アール・ヌーヴォーを代表するエミール・ガレについては、これまでに何度か取り上げてきました(*)。エミール・ガレと言うとガラス工芸品が有名ですが、今回は、ナンシーにあるナンシー派美術館で観られるガレの作品のうち、ガラス工芸品以外の作品をご紹介します。

最初にご紹介するのは、ファイアンス焼き (鈴釉を用いた色絵陶器) です。扇形 (写真右) のファイアンス焼きは珍しく、日本の影響を受けていると考えられます。黄色で囲んだ部分の拡大図の中には、巴や雷文に似た模様や青海波が描かれています。その一方で、右側の赤く囲んだ部分には、ブルボン王朝のフルール・ド・リスの紋章を見



ることができます。青で囲んだ中央部分には、二羽の雄鶏と一羽の雌鶏、Une poule survint et voilà la Guerre allumée (仮訳：ふと一羽の雌鶏が現れたら、戦争が始まってしまった。) という文字が描かれています。これは、ジャン・ド・ラ・フォンテーヌによる寓話詩「二羽の雄鶏」の中の一節です。(引用されているのは、詩の冒頭の Deux coqs vivaient en paix (仮訳：二羽の雄鶏が平和に暮らしていた。) に続く一節。ギリシャ神話に伝わるトロイア戦争を引用しつつ、英雄的な行動や戦争を批判した寓話詩。) ガレは、ジャン・ド・ラ・フォンテーヌにも影響を受けたとされており、フォンテーヌの寓話詩の一節を書き込んだ作品を他にも残しています。ガレは、自分が関心のあった日本とフォンテーヌの寓話詩を一つの作品に集めたただけなのか、何か意図があって日本とフランスの模様を混在させたデザインを描いたのか、ガレに真意を聞いてみたいです。



ファイアンス焼きでは、ガレはひょうたん型のフラワーポット（写真左）も作りました。ひょうたんは丈夫なことから、日本では縁起物として掛け軸や器の意匠に用いられてきました。外周に青と白の竹が並べられたデザインとなっていることから、この作品のタイトルは「竹」です。底には、魚が描かれています。

最後に、ガレの木工作品の中では珍しい黒色の作品をご覧ください（写真右）。家具やインテリア商品を販売していた店 L'Escalier de cristal のために制作された台です。この店では、日本や中国趣味の家具をいち早く取り入れて販売しました。ヴェルニ・マルタン（マルタン・ニス）を使ったガレの作品は、ほとんど残っていません。ヴェルニ・マルタンとは、マルタン兄弟が開発したニスで、日本の漆器に似せた光沢のある黒い色を出すときに用いられました。ピンクの梅が描かれ、まるで日本の漆器のように見えます。



これらの作品を見ると、日本美術の影響を受けたクリエイターであるガレは、単なる模倣ではなく、見たものから着想を得て自らのオリジナリティー溢れる作品を生み出していたことがわかるのではないのでしょうか。

* 82 [エミール・ガレと高島北海](#)

137 [北斎漫画](#)